

7．居住環境の調整にかかわる研究

研究の方法

- ・ 居住環境の実測・現状把握・模型実験

道具や実験装置が必要

ある程度は経験の世界

何事も実態把握から，困った時には，現場に戻る

現状把握をして，問題点を見いだす

（ 私の研究方法は，基本的にはこれ）

- ・ 理論の構築

頭と鉛筆と紙があればできる

物理学と数学を用いる

理学的な厳密性と工学的な応用性の兼ね合いが問題

- ・ シミュレーションによる検討

主として，コンピューターを用いる

コンピュータの発達に伴い，シミュレーションの分野が急激に発達

CFD（Computational Fluid Dynamics，数値流体力学）

特に代替手段を提案するときに有効

それぞれの方法は独立して存在しているわけではなく，相互に影響を及ぼしあって，研究が進んでいく。

8．レポート課題

1) あなたのまわりの居住環境はどうですか？よいですか？悪いですか？改善したい点がありますか？

あなたのまわりの居住環境は上手に調節されていますか？上手に調節されていない点は，どのようなところですか？

2) 授業の感想，意見などを自由に書いてください。

A4判の試験用紙（罫線なし）に1枚以上（足りないときには，裏に）。

基本的には，時間中に提出すること。時間が足りないときには，後日の提出も認めるが，その分評価は低くなるので注意。どんなに遅くとも年内に出さなければ，評点なし，とします。

講義を通しての質問・レポートの後日提出先

環境共生学部（生活科学部）旧棟4階南西の角の辻原研究室まで

電話：096-383-2929（内線492） / E-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

居住環境を創る（構築篇）（辻原担当分，3回目）〔2/9〕

2000.12.18（2時限）

担当：辻原 万規彦 教室：中講義室1

居住環境を創る（構築篇）（辻原担当分，3回目）〔3/9〕

2000.12.18（2時限）

担当：辻原 万規彦 教室：中講義室1

居住環境を創る（構築篇）（辻原担当分，3回目）〔4/9〕

2000.12.18（2時限）

担当：辻原 万規彦 教室：中講義室1

居住環境を創る（構築篇）（辻原担当分，3回目）〔5/9〕

2000.12.18（2時限）

担当：辻原 万規彦 教室：中講義室1

居住環境を創る（構築篇）（辻原担当分，3回目）〔6/9〕

2000.12.18（2時限）

担当：辻原 万規彦 教室：中講義室1

居住環境を創る（構築篇）（辻原担当分，3回目）〔7/9〕

2000.12.18（2時限）

担当：辻原 万規彦 教室：中講義室1

居住環境を創る（構築篇）（辻原担当分，3回目）〔8/9〕

2000.12.18（2時限）

担当：辻原 万規彦 教室：中講義室1

居住環境を創る（構築篇）（辻原担当分，3回目）〔9/9〕

2000.12.18（2時限）

担当：辻原 万規彦 教室：中講義室1